

《 学校だより 》

# ふるみち

第15号 平成27年10月16日発行

発行責任者

田村市立古道小学校長 根内 喜代重

〒963-4701田村市都路町古道字北町24 TEL0247(75)2004

## 「節目」が大事！

今年度も半分が過ぎ、10月13日（火）から「後期の学び」がスタートしましたが、長期休業を挟まない2学期制は、ややもすると区切りを実感できないままに過ぎ去ってしまうことがあります。

10月9日（金）の終業式では、自らをふりかえり、次の目標に向かってスタートを切る大切な機会であることを子どもたちと確認しました。その中で、ノーベル医学・生理学賞を受賞した北里大特別栄誉教授 大村 智 先生のインタビューから「留めておきたい言葉」を大村先生のエピソードなどを交えながら紹介しました。

「楽な道、楽な道を行くと本当のいい人生にならない。」「成功した人は、人より倍も3倍も失敗している。」「人のためにならなきゃだめだ。」「私は、めちゃくちゃ本を読む。」という4つです。

子どもたちが『GHK（元気・本気・根気）ふりかえりカード』を活用して目標を決めるうえで少しでも役立つことを願ってのことでした。

10月13日（火）の始業式、「校長先生のお話」はありません。子どもたち一人一人が決意を述べる時間にしました。子どもたちが決めた「学級のめあて」を紹介します。

1年「いっしょうけんめい はたらく クラス」

2年「なかがよく あきらめないで さいごまでがんばる(K) 元気いっぱい(G)のクラス」

3年「G 仲良く H 理解するまで学習し K 最後までやりとげる クラス」

4年「みんななかよく やることをやる クラス」

5年「元気に力を合わせ 本気で助け合い 最後まであきらめない クラス」

6年「あいさつができ 行動がてきぱきできる 仲のいい クラス、

授業に真剣に取り組み 友だちと協力できるクラス」

個人のめあてには、「元気にあいさつする」、「文章を読むことや算数の勉強を頑張る」、「わかるまで勉強する」、「力を合わせて掃除をする」、「係の仕事をきちんとやる」、「譲り合いの気持ちをもつ」、「友だちのことを考えて仲良くする」、「注意し合えるクラスにする」などそれぞれの決意を全校生の前で一人一人発表しました。行事担当の横田教諭からは、「どんなに忙しくても相手の顔をしっかり見てあいさつすることを心がけたい」という話がありました。子どもも大人も望ましい人間関係を築き、充実した毎日を過ごすための基本だと思います。私たち教職員も、保護者や地域の皆様のご支援、ご協力をいただきながら、一人一人にしっかりと力をつける教育を推進してまいりますので、ご家庭でも子どもたちのめあてをご確認のうえ、励ましてくださるようお願いいたします。

## 「ありがとう」の心を込めて！

10月5日（月）、小中学生合同での「クリーン作戦(清掃奉仕活動)」を行いました。活動場所は、日ごろ学習活動などでお世話になっている地域の公共施設（古道体育館、都路行政局、都路保健センター、都路診療所、まどか荘）です。ガラス拭きや掃き掃除、花壇の除草などを心を込めて行いました。小中学生が入り交じった縦割りグループでの活動でしたので、それぞれの頑張っている姿を目にするよい機会ともなりました。これを機に感謝や奉仕の心をいっそう育むとともに、ご協力いただきました各施設の皆様に心から御礼申し上げます。



## お父さん、お母さんといっしょにつくったよ！



保護者参観日の9月26日(土)、PTA学年委員会主催の「親子木工教室」が本校舎玄関前の広場で行われました。昨年度の「木製プランター」作りに続き、今年度は「本棚」と「テッシュ箱」を作りました。親子で、組み立て方の順番や釘を打つ場所を確かめながら、協力して作っている姿は、見ている心も温かくなってきます。何気ない会話を通して、親子の絆をいっそう強くすることができたのではないのでしょうか。



忙しい毎日を送る保護者のみなさんや子どもたちにとって、心の交流を図る貴重なひとときであったように感じました。

また、製作にあたってのご指導やきめ細かなアドバイスをいただきました。福島中央森林組合の志賀 一司 様、加藤 勝彦 様はじめ、諸準備をいただいた学年委員会の皆様、誠にありがとうございました。

10月11日(日)、二本松市で開催された「福島県PTA研究大会」にPTA会長と校長が参加しました。講演「子どものSOSに応える子育て」(講師 臨床心理士 成井 香苗 先生)の中では、「子どもが引き起こす気になる行動や問題行動は、すべて子どものSOSである」とらえること、「家族など人に大切にしてもらっているという実感が、自分を大切にすることにつながる」と、「3歳まで、そして、思春期での親子関係づくりが大切であること」、「親も教師もアンテナを高めて子どもの変化に気づけるようにすること」など、子育ての大切なキーワードであると感じました。また、グループ協議の中では、「子どもの表情や行動からちょっとした変化に気づく目を持つこと」、「地域の力を借りて子育てをしていくこと」の大切さなどについても話し合われました。

## 入賞おめでとう！

### ◇ 第28回国際平和ポスターコンテスト(田村ライオンズクラブ)

〈優秀賞〉 6年 村越 陽菜 ※本作品は、福島県の選考会へ出品されました。

### ◇ 田村地区交通安全ポスターコンクール

〈優秀賞〉 5年 宗像 愛望

### ◇ 田村地区青少年読書感想文コンクール

〈特選〉 5年 吉田 実里

〈準特選〉 3年 高橋 河和 4年 松本 綾音

〈入選〉 1年 渡辺 蒼空 2年 吉田 百花 6年 坂本 虎雅

### 《コラム》 子どもたちの思いや願い ～読書感想文コンクール作品より～

本との出会いは、子どもたちの心をこんなにも耕し豊かにするのか。

登場人物との出会いを通して、自らを振り返りながら、心の成長を遂げていく様子が確かに伝わってきました。例えば、

「身近なクレヨンの役割や使い方を見つめ直し、ものを大切に使うことを理解していく子」、  
「お母さんとの心温まる関係を振り返り、そのかけがえのない存在と感謝を感じ取っていく子」、  
「亡くなった祖母を思い起こしながら、主人公の思いを自分のことのように受け止めていく子」、  
「苦しいことにはなかなか挑戦できない自分を何とか変えていこうとする子」、  
「これまでの自分を見つめ直し、自己表現の大切さに気づき、新たな自分を発見していく子」、  
「スポーツ選手が練習や試合に取り組む姿勢を通して、自分の考え方や生き方を見つめ直している子」など。

また、次のような印象的な言葉もありました。

「あのとき、あきらめなくて本当によかった。」

「自分を信じて頑張ることは、少し難しいけど、とても大事なことなんだ。」